

令和6年度 第7回さぬき市地域未来づくり会議 会議要旨

開催日時	令和7年1月30日（木）午後7時～午後8時30分
場 所	さぬき市役所付属棟 多目的室
出席者	[委員・コーディネーター] 計5名 折原委員、砂川委員（WEB）、長町委員、池田委員、黒川コーディネーター
	[事務局] 計4名 向井審議監 プロジェクト推進室：大山室長、原田室長補佐、谷本主査
欠席者	なし
傍聴者	なし
次第	1 開会 2 移住相談支援体制のあり方について 3 その他 4 閉会
配布資料	次第
発言者	意見概要
座長	<p>前回、移住コーディネーターに来ていただいて意見をお聞きしたが、その中で、新潟県の事例を参考にし、さぬき市で実施するとすればどんなことができるのかということを中心に考えていきたい。別件になるが、1月の中旬に香川県の地域おこし協力隊の採用で、さぬき市に移住したい3名の方を3泊4日で案内したが、その話を共有させていただく。今までは、市が採用し、その後、住む場所に関しては各自で探してもらうスタイルであったが、今回は、移住希望者の3名を不動産屋の窓口連れて行き、物件や条件面の説明を受け、物件の内見も2時間程度で5、6件行ったところ、参加者からは「住むイメージがついた」という声があった。新潟県の事例だと、リゾートマンションも案内するそうだ。さぬき市であれば、徳島文理大学のキャンパス移転の関係で志度キャンパスの周辺には安くてきれいな物件が驚くほどあるので、移住希望者の住むところの受け皿としては余裕があると思う。あとは、やっぱり仕事だと思う。仕事さえ決まれば、アクセスの良さや安さということは、すごいポテンシャルがある。新潟県の移住専用サイトであるロカキャリを見ると、燕三条市は工場などのものづくり系の仕事が多く東かがわ市の手袋産業に近いと思う。ただ、これをさぬき市でとなると難しいので、例えば、さぬき市だと『海×移住』や『二拠点生活』といった方向も考えられる。移住相談支援対策のあり方で、ロカキャリの取組をさぬき市でやるにはどうしたら良いかといった路線で考えていくのか、あるいは別のことを考えていくのかによって議論の方向は異なってくる。ただ、ロカキャリの成立条件の一つに行政から移住支援業務を受託している点がある。それプラス仕事の紹介も行っており、移住相談に乗りつつ仕事の紹介を行い、企業からは紹介料を受け取る運営体制となっている。</p>

事務局	企業はハローワークにも求人を出していると思うが違いはあるのか。
座長	移住窓口業務だけだと仕事や物件の紹介までは至らない。では、行政として移住窓口業務に新たな人員を割けるかというそれは難しい。移住窓口業務だけだと職員１名分だと思うので、その部分を委託してプラス仕事紹介業の受け皿を作って取り組んでいるのが新潟県だと思う。
事務局	もし仮にこういうスキームを作るのであれば、移住コーディネーターの役割はどうなるのかが気になる。
座長	移住フェアなどは行政が行うこととなると思う。湯沢町の移住ポータルサイトでは助成金や空き家バンクのお試し移住を紹介している中に仕事の支援の分野でロカキャリアやハローワークを紹介している。市の公式アカウントは行政が発信していて相談業務はキラボシというロカキャリアを運営している会社が請け負っている。
事務局	この対応をする人が地域おこし協力隊か。
座長	そうだと思う。キラボシではワンストップ移住窓口業務と地域おこし協力隊活動支援業務の２つの業務を受託されている。これは今さぬき市が取り組んでいるスキームと同じで、協力隊員が業務として行い、任期期間の３年間で体制を整え、稼げるようにするといったことだと思う。この公式のサイトは企画観光課が作成しているので、本市の政策課と同じ立ち位置だと思う。このように移住窓口をまとめているサイト自体は公式として行政側で整備し、そこからの紹介やより詳しい説明などはキラボシが対応しているという感じだと思う。今の移住定住に関係する予算はどのくらいあるのか。
事務局	人件費と補助金の割合が多い。
座長	さぬき市の現状としては地域おこし協力隊の業務を移住コーディネーターが行っているイメージであるため、それであればわざわざ協力隊の制度を使わなくて良いと思う。
事務局	移住コーディネーターという立場であれば、物件や仕事を紹介しにくいと思う。
座長	例えば、移住窓口業務を委託に切り替えることも考えられる。また、キラボシのように移住窓口業務を委託し、その職員として移住コーディネーターを雇用することも考えられる。ただ、現在の移住コーディネーターの立ち位置をどうするかが問題だ。平日の窓口は現状のとおり移住コーディネーターが対応する方が良いと思うが、移住体験ハウスの掃除や管理の部分を委託することも考えられると思う。

委員	湯沢町のホームページには、空き家バンクの掲載は0件である一方で不動産屋が3つ掲載されている。どのような基準で選定されたかは分からないが、こういう形で掲載し、利用者が自由に選べるようにしておくことも良いと思う。
委員	掲載するに当たり料金の相場はどれくらいか。
委員	実績がない場合は、よほど安くない限りは断るケースが多いのではないか。まずは無料で試験的に実施してはどうか。
座長	最初無料で案内を行い、その後有料化して掲載するか否かを自由に判断できるようにすればきちんとした不動産屋が残る気がする。また、移住体験ハウスについては最大30日としているがさぬき市は90日になっていることや各種助成制度があるが内容が一目で分かりにくいことが問題だと思う。
事務局	市の移住総合ポータルサイト「ええとこさぬき」は、来年度の市ホームページのリニューアルと合わせて更新すると聞いている。
委員	職員では出来ないのか。
事務局	記事の更新とかは職員がしているが、抜本的なレイアウトの変更には費用がかかる。
委員	この会議の意見を取りまとめて、移住サイトのリニューアルについて提案をしてみてもどうか。
座長	では、移住支援のところを民間とタッグを組んで行う提案とすることとして、どんな内容にするかを考えることとする。
委員	提案ベースでは、移住コーディネーターの業務を変える場合と地域おこし協力隊を導入する場合の2つを作ってみてはどうか。
座長	事業費の想定が難しい。
事務局	財源の話は提案の際に実現性の部分で重要となるので、国や県の制度で使えるものがあるか調べておく必要がある。
座長	それに関しては、次回までに補助制度をいくつか調べていただきたい。ここからは体制というよりは具体的な中身を議論していきたい。

委員	個人的な話になるが、今会社でＡＩエンジニアの採用を強化している。たまたま人伝いで香川県に在住しているＡＩエンジニアと知り合い、その人とコミュニケーションを取るために香川県へ帰った時に、泊まりながら一緒に仕事できる場所は欲しいという意見があった。ワーケーションに近い感じになるが、そういうニーズはあると思う。
座長	サテライトオフィスみたいなイメージだと思う。確かに徳島県も積極的に取り組まれていて財政措置もある。なぜそれが始まったのかと言うと、東京でエンジニアが採用できなくて、人材紹介も費用がかかる中で、徳島県でなら働けますよという募集をしたら応募がたくさん来たらしい。これはどちらかという企業の移住に近いと思う。
委員	他のエンジニアの方も、神戸市にいて東京に来てもらおうと思っていたが地方に住みたいと言っていたので、地方で企業のサテライトオフィスをすることは一定の需要はあると思う。
座長	ワーケーション施設を国の助成金を使って整備しているところをいくつか見に行ったことがあるが、地元の企業が借りているケースもあれば、都市部の企業が借りている場合もあった。実際、最近、在宅ワークで東京の上場企業で働いている方が津田地区に移住してきたが、その方も働くオフィスを探していた。前のワーケーションのイベントの時もやはり働く場所がネックとなっていた。毎回カフェでできるわけではないので、ロッカーがあって書類を置く場所が必要になる。例えばコワーキングスペースみたいなところから始めると、知り合いもできるため、移住に繋がる可能性もあると思う。『海×移住』とかはイメージしやすいのではないかな。
事務局	海に限定した方が良いか。
座長	そんなことはないと思う。『海×移住』で津田エリアや志度エリア、『山×移住』で前山エリアと言った感じになると思う。２拠点となるとなかなかイメージが浮かばない。
委員	県外に出た子どもが、親が亡くなって相続した空き家を管理するためにさぬき市に帰ってくことで地域の消費が増えるということを以前市長が言っていた。
座長	この件に関してはふるさと住民登録制度というのがあり、今後、住民税を２箇所では払える制度が出来る可能性がある。この２拠点居住を今の内から準備しておく良いと思う。今の日本全体の流れとしては関係人口をより具体的にしていくことになっているので、移住と移住以外の関わり方として窓口を整備することはあると思う。

	完全移住じゃなくても良いので、2拠点居住となるとワーケーションとかサテライトオフィスなどの整備が必須となる気がする。
委員	コワーキングスペースを整備してくれるのであれば運営をする人もいると思う。
事務局	そういう施設は海が見えるところが良いのか。
座長	海見えるだけで誘致できる企業の数全然違う気がする。そこは譲らない方が良いと思う。1つ誘致の話が決まると、税金ですぐ回収できると思う。例えば、A I 関係の企業がオフィスを置くとなると、そこでA I エンジニアが働く場所となり、そういうインパクトは一定数ある気はする。
委員	単純にロケーションの良さで言えば、徳島文理大学の跡地が良いと思う。
座長	大学跡だと比較的大きな企業が誘致できると思う。逆に津田エリアだと大きな企業というよりは個人の方の誘致といった感じになると思うので、それぞれパターン分けし合っても良いと思う。通勤や子育てに関しても十分な気はしている。待機児童はさぬき市にはいるのか。
事務局	いない。
座長	こういうところが移住を検討されている方からすればメリットだと思う。実際、移住された方に聞いた話では、大阪で働いていて子どもを預けようと思ったら車で仕事場とは逆方向に20分のところでないと預けることができなかったそう。自分が働いている近くに子どもを預けられること自体が都市部の人からみればすごい話になる。あとは移住者の方が実際に使っているファミリーサポートみたいなものがある。
委員	お願い会員、任せて会員というもので、個人の託児所みたいなイメージだ。個人間で金銭のやり取りは発生するが、一時間数百円で預けることができる
座長	実際、この制度を使われて子どもの面倒見てもらっている移住者の方もいたりするので、割と子育てに関してはもっとPRできると思う。また、通勤も高松市まで通いやすいということや、神戸までバスで2時間、大阪だったら2時間半なので近いと思う。更に言えば、物件の中でマンスリー的な使い方ができることも一つ考えられると思う。
事務局	ワンルームマンションの利用期間は最短でどのくらいか。

委員	<p>基本的には通常の賃貸契約であれば2年契約となる。1年未満で解約すれば違約金を取るケースもあるが、法人だとマンスリーを求められているところはある。これも法律がいろいろ絡んでいて、本来1年未満の契約は無期限の契約に自動的に変わってしまう。ただ、定期借家契約という特別な契約であればマンスリーとか2週間の契約とすることもできる。志度地区で3万円の家賃のところを1ヶ月間だけ借りたいとなると、掃除代などの諸々の経費を入れると月10万円くらいにはなってしまう。マンスリーの場合はどこから利益を産むかが難しい。津田地区はワンルームの物件は少なく一軒家が多いと思う。</p>
座長	<p>各種制度や施策を色々に行っているの、それをサイトにきれいにまとめることに意味があると思う。まず、国や県の支援制度を調べていただきたい。先程話があったコワーキングスペース以外はさぬき市として既に取り組んでいることが分かった。任期の話になるが2年の任期が本来だと3月で終わるが、次回から市長に提案するための資料などをまとめることとすると、次回だけでは難しいともう。ただ3月は議会もあるので任期を数ヶ月延長する可能性が高いので了解いただきたい。</p>
委員	<p>来期はどんな感じになるのか。</p>
事務局	<p>地域未来づくり会議自体の予算は来年度も要求しているが、メンバーやテーマについては今後検討していく。</p>
座長	<p>例えば、今期の会議では扱っていない分野が多く、福祉や観光、農業の分野はテーマとしていない。テーマを決めていく中でメンバーのイメージが見えてくると思う。関係人口や移住定住、2拠点居住とかは国の目指す地方創生の部分と合致していると思う。次回は各種制度を調べていただくことと、市長への提案の際の資料の骨組や目次づくりをしていきたい。</p> <p>以上で、本日の会議は終了する。</p> <p style="text-align: center;">～閉会～</p>